

せったん

第184号 2019年11月25日

兵庫県保険医協会北摂・丹波支部
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階
TEL078-393-1801 FAX 078-393-1802

北摂・丹波支部ニュース



感想文

歯科会員懇談会を開催

歯科に求められる

新しい知識と多職種連携

10月19日、北摂・丹波支部は、協会歯科部会と共催して、三田市総合福祉保健センターで歯科会員懇談会を開催。歯科医師ら16人が参加した。「全身疾患と歯科治療」健康データとお薬手帳を活用する」をテーマに尼崎中央病院歯科口腔外科部長の佐々木先生が講演し、川村雅之協会副理事長が社保・審査・指導対策について話題提供した。参加した吉原秀明先生の感想を紹介する。

現在わが国は超高齢社会を迎え、全身疾患を持ち、日常的に投薬を受けている患者が増加している。歯科治療を行うにあたっては、投薬内容と健康データから罹患している全身疾患を把握し、治療中の注意点、投薬内容等を改めて見つめ直す必要がある、その留意点についてご講演いただいた。

まずは肝機能の話があり、ASTとALTの関係性と数値の見方、肝障害を疑われる場合は薬物代謝の

遅延と創傷治癒遅延、重症

化した場合は出血傾向があることご教示いただいた。薬物は代謝経路があり、腎排泄なのか肝胆道系排泄なのかを把握し、投薬を行うこと。歯科でよく投与されるカロナールでは、肝臓の機能低下を起こしている患者には注意することを忘れな

腎機能の話では、BUN、CREA、eGFRの基礎的な知識から説明された。CREAの上昇の理由、eGFRの重要性等がスポットであった。



これまで以上の多職種連携が求めると話す佐々木先生

トであった。

特にeGFRは腎機能を把握するため重要な数値であり、40%以下では注意が必要であり、口

キソニン等に代表されるNSAIDsは降圧剤を飲んでいる高齢者の場合、致命的な高カリウム血症を引き起こす可能性があることを説明された。

抗凝固薬については、血液凝固の機序から説明があり、PT、aPTTの数値の意味、ワー

ファリンや最

近頻用されるエリキウス、イグザレルト等のDOACの機序と注意点を説明された。基本的に抗凝固薬は歯科治療を行う上で中止してはならず、抗血小板薬等を服用していても血は必ず止まるということをご教示いただいた。

低血糖への対応については、低血糖発作の恐ろしさ、糖の吸収についての話が、ブドウ糖投与を注射で行うことができれば最適であるが、意識があり経口摂取可能である場合は、コーラを飲ませることが優秀であるとのことだった。また多糖類は避けるべきで、角砂糖などは吸収の機序より、発作時はあまり適さないことも興味深いことだった。

最後に骨粗鬆症について、骨粗鬆症薬の種類、その見分け方と対応の仕方について説明された。整形外科は骨粗鬆症について歯科との連携を嫌がっており、その理由が歯科医の知識不足からであったということ。は耳の痛い話であった。

一貫して、基礎分野から非常に分かりやすく、臨床に即した要点を押さえた講演をしていただいた。

わが国の医療は治療から予防へ、病院から在宅へとシフトしている今、これまでに以上に多職種連携が求められる状況にある。歯科医として、医科の現場と同じフィールドにいる必要がある、それには最新の情報で自分をアップデートし、常に正しい知識を身に付け続ける必要があると、身の引き締まる思いであった。

【三田市・歯科

吉原 秀明】

懇談会には16人が参加し、臨床上重要な点を学習した



医療安全管理対策研修会

実践形式の感染対策で
大切な患者を守る

北摂・丹波支部は11月16日、丹波篠山市・四季の森生涯学習センターで医療安全管理対策研修会「感染対策の基礎演習を学ぶ」を主催。済生会兵庫県病院感染対策認定看護師の小川麻由美氏が講師を務め、33人が参加した。

小川氏は講演の冒頭で、これから流行するノロウイルス感染症について解説。



小川看護師が、参加者一人ひとりにブラックライトを当て、洗い残しがないかチェックしてアドバイスした

ノロウイルスは感染力が強く、ごく少量のウイルスによつて発症するため、予防には、流水や石鹸によつてウイルスを洗い流す「手洗い」と、アルコールを用いた手指消毒が重要であると、この二つを合わせた手



患者役、スタッフ役などに分かれて嘔吐物処理の演習を行った

指衛生をきちんと行えるようになることが大切であると説明。映像を交えて、正しい手指衛生の方法を解説した。

手指衛生を行うタイミングとしては、①患者に接する前、②無菌的操作の前、③体液暴露の可能性があった後、④患者に接した後、⑤患者周囲の環境に接した後の五つがあることを紹介した。

正しい手指衛生を学んだ後は、手洗い演習を実施した。

ブラックライトを当てることで洗い残し分かる「手洗いチェッカー」を用いた演習を実施。参加者は、指と指の間や、親指の付け根など、洗い残しやすい部位に注意しながら演習を行った。

続いて、嘔吐物の正しい処理方法について解説。ガウンやエ

プロンの正しい着脱の演習に続いて、嘔吐物処理の演習を行った。外来患者が待合室や廊下などで嘔吐したさまざまなケースを想定し、ガウンやエプロンを実際に着用した上で模擬吐しや物の処理を実践。処理時にどのような点に注意すれば、感染が広がらないかをそれぞれ解説した。

以下に当日の参加者の感想を紹介する。

★参加者の感想

・季節柄、参考になる研修でした。普段から気になっていた細かいところまでお話を聞いてよかったです。これから参考にしていきます (看護師)

・流水手洗いの重要性が再確認できました。日々の環境整備に努めていきます (看護師)

・直接診療に関わる業務を担っていませんが、建物内を移動することはありますので、今回の研修で学んだことを実践して感染予防に努めようと思います(事務)

「保険でより良い歯科」署名

今すぐご返送を！

歯科医療の充実に必要な費用を国の責任で確保することなどを求める「保険でより良い歯科医療を求める請願署名」の国会提出日が迫っています。お手元に署名が残っている先生は協会までご返信ください。

⇒「保険でより良い歯科医療を求める」請願署名用紙

衆議院議長・参議院議長 宛

保険でより良い歯科医療を求める請願署名

お口の中を健康に保つことは、全身の健康と深く関係します。歯科医療は糖尿病など生活習慣病の改善や認知症予防などにつながり、ますます重要になっています。しかし、経済的理由により早期受診が困難であったり、治療の中断が増えるなど、子どもから高齢者まで口腔状況の悪化や口腔癌ともいえる深刻な実態があります。さらに歯科では、丈夫で違和感の少ない金属床の入れ歯や自然の色に近いかぶせ物などはまだまだ保険外のものが多く、保険のきく範囲は制限されています。また、国が定める保険診療の報酬が低く設定されているため、歯科医療機関の経営は逼迫しています。

「お金の心配をせずに歯科治療を受けたい」「保険のきく歯科治療を受けたい」という患者・国民の願いにこたえるには、歯科医療の充実に必要な費用を、国の責任で確保していくことが必要です。

以下の項目を請願します。

*** 請願項目 ***

- お金の心配をせず、歯科治療が受けられるよう、窓口負担割合を引き下げてください
- 保険のきく歯科治療を増やしてください
- 歯科医療の充実に必要な費用は、国の責任で確保してください

氏名	〒	〒	〒

11月28日に
国会へ提出

11月19日現在
1万384筆

健康情報テレホンサービス
0120-979-451

12月のテーマ

- 月曜日 白内障手術の前後で注意すること
- 火曜日 糖尿病と歯周病の関係について
- 水曜日 足首の捻挫
- 木曜日 めまい、ふらつきはなぜ起こるの？ どうすればいいの？
- 金土日 ジェネリック医薬品（後発品）の話